

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	東松山キャンパス運営委員会
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	【全学共通科目】 ・全学共通科目は、東松山キャンパスで学ぶ8 学部 of 1、2 年生を対象として、学部学科の垣根をこえて開講されており、大きく「基本科目」「課題（テーマ）科目」および「教職課程専門科目」に分かれる。 ・「基本科目」は、A 系「人間と文化（人文系）」、B 系「社会と生活（社会系）」、C 系「自然と環境（自然系）」、D 系「健康とスポーツ（保健体育）」の 4 群に分類されている。これは、人類が長い歴史を通じて探究し、その成果として積み上げてきた真理や叡智を学問として体系化して教授するための分類であり、これらを通じて学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を備えた人間を育成することをめざしている。いわば教養教育の中核的な部分として、すべての学生が共通に学修する「共通基礎教養」として位置づけられる。 ・「課題（テーマ）科目」は、従来の学問体系を超えた学際性を重視し、過去・現在さらには未来の社会や生活と密接にかかわる課題（テーマ）を扱うことによって、学生に社会へのかかわり、時代に対する問題意識を喚起し、専門教育への動機づけを与えることも目指している。いわば「専門基礎教養教育」という性格をも備えており、問題探求型・問題解決型の学習をおこなうことが想定されている。 ・「教職課程専門科目」には、教職資格の取得を希望する学生たちのために、日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、心理学概論、倫理学概論、哲学概論、法学概論、日本国憲法などの科目を配置している。資格取得を希望しない学生も履修することができる。 【英語教育】 ・東松山キャンパスで行われている 1・2 年生を対象とした英語教育は、学部ごとに行われている。このため、英語教育のカリキュラムは各学部で編成され、教育目標、科目名、教授法なども学部ごとに定められている。 【未修外国語】 ・英語とならぶ外国語教育の柱である未修外国語（原則として、高校までに学修しない外国語）はフランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、ポルトガル語、中国語、タイ語、韓国語、インドネシア語、ビルマ語、ラテン語、ギリシア語の 13 言語が開講されている。 ・教科書の選択など初修者に適したコースデザインが提供され、学生の関心や理解度に合わせた授業を行っている。多くの言語にネイティブの教員が配置されている。また中国語は、複数の学部にまたがって、海外研修による単位互換が認められている。
4-2-2	【全学共通科目】 ・2013 年度開講の全学共通科目中の基本科目は以下のとおり編成され、教養教育にふさわしい教育内容を提供している。高大連携については、一部の科目を高校生に開放している。 A 系 人間と文化（人文系） 哲学、文学、論理学、倫理学、宗教学、歴史学、考古学、文化史、芸術学、地理学、言語学 B 系 社会と生活（社会系） 法学、社会学、政治学、経済学、心理学、教育学、民俗学、文化人類学 C 系 自然と環境（自然系）

	数学、地学、生物学、生態学、現代科学、情報科学、自然科学 D系 健康とスポーツ（保健体育） 総合体育、健康スポーツ科学、体育実技、野外実習 ・2013年度の課題（テーマ）科目各群の内容は、以下のとおりである。 第1群 地域・国家・民族の考察（中国地域文化論、沖縄の歴史と文化、日蘭交渉史、日本の歴史地理） 第2群 女性・子ども・老人への視点（日本子ども史、ジェンダー史） 第3群 人権・民主主義・平和を考える（平和学） 第4群 現代社会の諸問題（現代日本経済、環境政策と環境行政、ニューベンチャー講座、秩序と公共性の思想、気候変動論から考える日本史） 第5群 異文化・世界にふれる（西洋文化史、文化と環境、中国少数民族、歴史都市、芸術と社会、文学と社会、現代文化における思春期の表象、解釈学、東方キリスト教の世界、海外インターンシップ準備講座） 第6群 自己・人間をみつめる（《愛》について、ことばと人間、文章の書き方、大学生のための文章表現入門、大学生のための文章表現実践、囲碁と将棋、現代の大学、論語、農林漁業と人間環境、日本の国のかたちと日本人） 第7群 キャリアデザイン（就職力養成講座、自分の将来と生き方を考える、コミュニケーション力を磨く） 第8群 全学共通特殊講義（実験化学とレポートのまとめ方、自然観察フィールドワーク） ・キャリア教育については、既存の「キャリアデザイン」科目を、2011年度より第7群「キャリアデザイン」として複数科目を配置し、就職講座にとどまらない長期的な視点に立ったキャリア形成を考えるように1・2年次から指導している。 ・教職課程専門科目には以下のものが配置されている。 日本史概論A、日本史概論B、西洋史概論、東洋史概論、日本の人文地理、世界の人文地理、日本の自然地理、世界の自然地理、日本地誌概論、世界地誌概論、日本国憲法、法学概論、情報処理、哲学概論A、哲学概論B、倫理学概論A、倫理学概論B、心理学概論、社会病理 ・D系 健康とスポーツ（保健体育）については、学部学科を問わず、全ての学生に必要な健康の維持増進を目的とした教育内容を設定しているため、全学共通の初年次教育として十分な役割を果たしている。実技科目については1、2年次開講科目であることを考慮して、初心者基準とした授業計画が設定されている。講義科目も同様に初学者にも理解しやすい内容となっている。
4-2-3	・全学共通科目の基本科目では、日本、東洋、西洋という地域のバランスに配慮した科目編成が行われ、また課題（テーマ）科目では今日の国際化にも対応した科目が編成されている。言語科目では、英語以外に13の言語が提供され、英語圏以外の社会や文化への関心・興味を育てている。中国語は、複数の学部にもまたがって、海外研修による単位互換が認められている。 ・保健体育についても、実技科目、講義科目および野外実習科目において、国際的動向を踏まえた教育内容を提供している。
4-2-4	・教育課程の適切性については、全学共通科目分科会、英語分科会、外国語分科会（未修外国語）、保健体育分科会の各分科会において検証し、教務部会を通じて東松山キャンパス運営委員会で定期的に検証する体制がとられている。

【効果が上がっている事項】

4-2-1	・全学共通科目は基本科目から課題（テーマ）科目まで、多彩な科目が開講され、学生の興味・関心に応えられる編成となっている。 ・保健体育では実技科目と講義科目を履修することにより、健全な学生生活を送るために必要な知識と技術の習得ができています。
4-2-2	・キャリアデザインは受講者も多く、1、2年次からキャリア形成を意識づけるという点で効果を上げている。
4-2-3	・中国語の海外研修における単位互換が複数の学部で認められている。
4-2-4	・分科会→教務部会→東松山キャンパス運営委員会という検証体制が整っている。

【改善すべき事項】

4-2-1	・基本科目については、人類が長い歴史を通じて探究し、その成果として積み上げてきた真理や叡智を学問として体系化して教授するという視点から編成されており、基本的に変更の必要はないと考えられる。ただ2005年度まで実施された「総合教育科目」において「創作活動」や「総合教育特殊講義」とされていた科目が、全学共通科目においては性格の異なる「基本科目」などに区分されており、改善の必要がある。特定学科専用の科目が、全学共通科目の名目で編成表に掲載されていることも改善の余地がある。 ・基本科目については、歴史学A・B、芸術学A・Bの内で科目数が多いため、AとBの2科目しか履修を認めないという現行制度のもとでは、たとえば歴史に興味のある学生が集中的に歴史関連科目を履修できないという問題がある。当面の改善案として、歴史学A・Bを細分化することにより学生の履修機会を増やすことが考えられる。 ・保健体育の実技科目では、その種目を専門としている教員を配置するように努力する必要がある。講義科目においては、健康スポーツの広汎にわたる内容を全てカバーしきれていない。 ・課題（テーマ）科目については、区分の意味が必ずしも明確でなく、科目名と授業内容が整合していないものがある。また、群間で科目数のばらつきがあり、科目数が少なく科目群として成立しないものがある一方、科目数が多い科目群がある
-------	---

	ため、科目を再配分して、学生の履修機会の適正化をはかる必要がある。
4-2-2	
4-2-3	
4-2-4	・ 検証体制を充実させるために、全学共通科目分科会の運営委員会には、A 人文系、B 社会系、C 自然系の各分野から必ず運営委員を出すようにして、分科会所属教員の間の意思疎通を図る必要がある。

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「全学共通科目」学部別履修状況調査資料（東松山キャンパス運営委員会）
総合体育ガイドブック、体力診断テストのデータ、2 年次のアンケート調査結果、保健体育分科会の議事録

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-1 基本科目 A 系の「歴史学 A・B」を「日本史 A・B」「東洋史 A・B」「西洋史 A・B」に細分する。	学則改正が大学評議会で承認される。	→				
	4-2-1 現行の「課題（テーマ）科目」を新「課題（テーマ）科目」と「実践力養成科目」とに分ける。	学則改正が大学評議会で承認される。	→				
	4-2-1 新「課題（テーマ）科目」は、4 群に再編整理し、「実践力養成科目」は、実践的スキルを育成する実技・実習系の科目群と、キャリア設計・キャリア開発に関わる科目群とに分ける。	学則改正が大学評議会で承認される。	→				
14 年度 目標	4-2-1 学則改正提案を行う時期を、学部・学科再編との関係で検討する。	左記のことが東松山キャンパス運営委員会でされている。	→				
	4-2-4 全学共通科目分科会の運営委員会は、A 人文系、B 社会系、C 自然系の各分野から必ず運営委員を出し、検証体制を強化する。	左記のことが実現されている。	→				